

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者対策総合研究事業）
分 担 研 究 報 告 書

ガイドライン利用モデルの構築及び課題抽出

研究分担者 硯川 潤 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部 福祉機器開発室長
研究分担者 西嶋 一智 宮城県 リハビリテーション支援センター
技術副参事兼技術次長
研究分担者 向野 雅彦 藤田医科大学医学部
リハビリテーション医学 I 講座 准教授

研究要旨 本文

本分担研究課題においては、障害者の相談対応業務を行う施設へのアンケート調査を通じた課題整理と、ICF コードの検索および関連する支援機器の情報にアクセスできる検索システムの作成を実施した。

アンケート調査の結果からは、支援機器の選定に際しての課題が確認され、本研究課題において構築するデータベースの有用性が示唆された。一方で、データベースに含まれない情報へのニーズも確認され、利用モデルにおける対応を検討していく必要がある。

支援機器の適切な選定・導入運用をサポートする上で、利用者が容易に情報にアクセスする仕組みを作ることは重要である。本研究では、これまでに作成されてきた国際生活機能分類(ICF)の関連語句リストの見直しと整理を行うと共に、コードの検索および関連する福祉用具の情報にアクセスできる検索システムを作成した。これらの取り組みは、実際に支援機器の選定・導入に際してサポートとなることが期待される。

A. 研究目的

1. アンケート調査による課題整理

本分担研究課題の最終的な目的であるガイドライン利用モデル構築のためには、ガイドラインの想定利用者が臨床現場において直面する課題を抽出・整理することが必要となる。特に、支援機器利用者の多様なニーズに対応する必要がある在宅支援においては、支援機器の選択・調整のプロセスが一律ではなく、従ってそこに存在する課題も明確になっていない。そこで、本年度は在宅支援における支援機器の選択・調整に関わる施設・機関を対象に調査を実施した。

2. ICF 辞書、コード検索システムの開発

リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用を行うにあたり、支援機器の分類と共に重要なことは、利用者が容易に情報にアクセスすることを可能にすることである。本研究事業では国際生活機能分類（以下、ICF）をベースに用いて

いるが、日常で使用される語彙と分類の名称は必ずしも一致しないため、利用者が適切な分類を選択するためにはサポートが必要である。サポートのためのツールとして、分担者らはこれまでにリハビリテーション専門職への調査に基づき、ICF のコードと関連した語句との対応表および簡易な検索システムを作成してきた。本研究では、関連語句の見直しと整理を行うと共に、コードの検索につづけてコードに紐づいた支援機器の情報にアクセスできる検索システムを作成した。

B. 研究方法

1. アンケート調査による課題整理

障害者の在宅支援に関する相談業務の処理件数が多いと考えられる調査対象施設として、都道府県・指定都市に設置されている難病相談支援センター78施設 (<https://www.nanbyou.or.jp/entry/1361>)、一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会が公開

する認定療法士所属施設 403 施設 (https://www.homonreha.org/mypage/authorization/download/download40_20211001.pdf) を選定した。対象施設には別添の調査票 (資料 1) を郵送し、返送された調査票の回答を集計した。

2. ICF 辞書、コード検索システムの開発

これまでに、分担者らはリハビリテーション専門職 186 名への調査に基づき、ICF のコードと語句の対応表を作成してきた。今回は、リハビリテーション科医師 1 名、理学療法士 2 名、作業療法士 2 名のレビューグループを形成し、妥当性、一貫性の観点から特に ICF の"活動と参加"の第二レベル項目について語句の整理を行った。また、語句検索に加え、本研究事業において作成されている支援機器と ICF との対応表を用いて、支援機器の情報にアクセスできるデータベースを持つ検索システム (web アプリケーション) を作成した。

(倫理面への配慮)

本研究においては、人を対象にした研究等、倫理面への配慮が必要な取り組みは実施していない。

C. 研究結果

1. アンケート調査による課題整理

返送された調査票は 131 件であり、返送率は 27.2% となった。質問項目ごとの集計結果を別添資料 2 として示す。

相談対応する障害支援区分件数についての回答では、身体障害または難病を 1 位とした施設が 98.5% を占め、身体障害の種類については 85.5% の施設が肢体不自由を 1 位と回答した。また、74% の施設が支援機器に関する相談を受けると回答した。

支援機器に関する相談への対応方法は、自らによる対応と関連機関への問い合わせ・紹介が同程度であった。相談のあった身体障害は、肢体不自由を 1 位と回答した施設が 79.4% と最多であり、内容については移動や動作等に関する内容と意思疎通等に関連する内容を 1 位と回答した施設が約 8 割に達した。

相談対応における課題については、「適切な支援機器の種類が分からない」が 57.7%、「相談すべき

専門職がいる機関との連携が無いか不十分」が 50.5% と、過半数の施設からの回答を得た。また、ガイドラインへのニーズとしては、「支援機器の調達 (貸与・購入) 方法及び手段」、「支援機器に関連する制度」、「障害の特徴に合わせた支援機器の活用事例」の 3 項目が 7 割以上の施設に選択された。

利用モデルの一案として重度障害者用意思伝達装置を対象として検討を行って見たが、失われた機能と残存している機能を基に入力スイッチを検討していくにあたり、データベースを活用するにはまだまだ課題が多いことが現状としてわかった。

2. ICF 辞書、コード検索システムの開発

ICF の"活動と参加"の第二レベルの 79 項目のコードに関連した語句のリストの更新を行った。更新にあたっては"痴呆"などの差別語の排除、一貫性に配慮した改訂を実施した。

また、検索システムについては多数の検索語句および支援機器の情報を登録できるデータベースを備えたシステムを作成し、コードの支援機器と ICF との対応表を用いてコード検索後に該当コードに紐づいた支援機器の情報にアクセスできる仕組みを作成した (資料 3)。

D. 考察

1. アンケート調査による課題整理

回答施設における相談の障害支援区分・身体障害者種別等の傾向から、選定した対象群が本研究課題の調査目的に対して適切であったことが示唆される。7 割以上の施設が、支援機器の相談に自ら対応すると回答した一方で、支援機器の選定に課題を抱える施設が半数程度存在した。従って、本研究課題で構築しているデータベースは、支援機器に関する相談対応における課題解決に資するツールとなり得ることが確認された。一方で、相談対応を関連機関に引き継ぐ必要がある時も、十分な連携体制が確保されていない状況が示された。また、支援機器の調達や活用事例など、支援機器データベース内には含まれない情報へのニーズも高いことが分かった。このような、データベース提供だけでは解決されない課題

については、利用モデルのフローに他の解決策を含めるなどの配慮が必要となる。

2. ICF 辞書、コード検索システムの開発

支援器具の選定・導入運用のガイドライン、データベースの活用の仕組みを構築し、普及を進めていく上において、支援機器や生活機能の分類の仕組みになじみのない利用者に対してもできるだけ容易に情報にアクセスできるよう、活用を支援する仕組みを用意していくことは重要である。本研究では臨床でよく使われる語句から ICF のコードを検索し、支援機器の情報までアクセスできる検索システムを作成した。今後は、実際に臨床現場で試用を行いながら、臨床家が使いやすい形にブラッシュアップを行うことを予定している。このような仕組みの作成により、本研究事業において作成しているデータベースを実際に支援機器の選定・導入する場面に活用していくためのサポートとなることが期待される。

E. 結論

1. アンケート調査による課題整理

障害者支援施設へのアンケート調査から、支援機器に関する相談対応に際しての課題を分析した。その結果、支援機器の選定に際しての課題が確認され、本研究課題において構築するデータベースの有用性が示唆された。一方で、データベースに含まれない情報へのニーズも確認され、利用モデルにおける対応を検討していく。

2. ICF 辞書、コード検索システムの開発

本研究では、これまでに作成されてきた ICF の関連語句リストの見直しと整理を行うと共に、コードの検索および関連する支援機器の情報にアクセスできる検索システムを作成した。これらの取り組みは、実際に支援機器の選定・導入に際してサポートとなることが期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表

・向野 雅彦. (2022). 国際生活機能分類普及推進のための語句検索システムの作成およびそれに基づく生活機能調査の実施. 厚生指標, 69(3), 36-39.

2. 学会発表

・ Mukaino M, Yamada S, Oikawa E, Izumi S. Collection and ICF-based categorization of clinical terms used in Japanese rehabilitation practice. WHO-FIC Network Annual Meeting 2021, 18th-22nd October, Online.

・澤田有希, 硯川潤, 井上剛伸. “在宅支援におけるスマートデバイスの利用実態—専門職へのインタビューから—”, 第 35 回リハ工学カンファレンス講演論文集, pp.138-139, 2021. (2021-09-26)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

資料 3-1 支援機器相談業務に関する調査票

アンケート用紙

以下、チェックボックス、()内の記載にて回答願います。

1. 貴施設が開設されたのは西暦何年ですか？

()年

2. ご回答される方の職種をお答えください(✓は複数可)。

- 1.医師
- 2.理学療法士
- 3.作業療法士
- 4.言語療法士
- 5.保健師・看護師
- 6.相談支援専門員
- 7.社会福祉士
- 8.精神保健福祉士
- 9.生活支援員
- 10.その他(職名を記載ください: _____)

3. 相談対応する障害支援区分を多い順に1位から4位の順位(数値)でお答えください。

- 1.精神障害 ()位
- 2.知的障害 ()位
- 3.身体障害 ()位
- 4.難病等 ()位

4. 相談対応する身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位(数値)でお答えください。

- 1.視覚障害 ()位
- 2.聴覚または平衡機能の障害 ()位
- 3.音声機能、言語機能またはそしゃく機能の障害 ()位
- 4.肢体不自由 ()位
- 5.心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害 ()位

5. 貴施設では支援機器について相談を受けることはありますか。

- 1.有(5-2から5-6についてもお答えください)

□ 2.無（6に進んでください）

5-2 5で有と答えた場合にはその頻度をお答えください。

おおよそ（ ）件/年

5-3 5で有と答えた場合にはその対応方法について以下より選んでください（✓は複数可）。

□ 1.自ら対応する（ネットの活用など具体的方法についてもお答えください：

_____）

□ 2.関連機関に問い合わせ又は紹介する（病院や身体障害者更生相談所など具体的な機関の名称についてもお答えください：

_____）

□ 3.その他（具体的な対応法をお答えください：

_____）

5-4 5で有と答えた場合には、相談のあった身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。

- 1.視覚障害（ ）位
- 2.聴覚または平衡機能の障害（ ）位
- 3.音声機能、言語機能またはそしゃく機能の障害（ ）位
- 4.肢体不自由（ ）位
- 5.心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害（ ）位

5-5 5で有と答えた場合には、相談内容として多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。

- 1.移動や動作等に関連する内容（ ）位
- 2.身の回りの世話や日常生活等に関連する内容（ ）位
- 3.意思疎通等に関連する内容（ ）位
- 4.行動障害に関連する内容（ ）位
- 5.特別な医療に関連する内容（ ）位

5-6 5で有と答えた場合には、相談を受けて困ることをお答えください（✓は複数可）。

- 1.適切な支援機器の種類が分からない
- 2.相談すべき専門職が誰であるか分からない
- 3.相談すべき専門職がいる機関との連携が無いか不十分
- 4.相談者に寄り添える十分な時間が無い
- 5.その他（具体的にお答えください：

_____）

5-7 5で有と答えた場合には、主に対応する方の職種をお答えください。

()

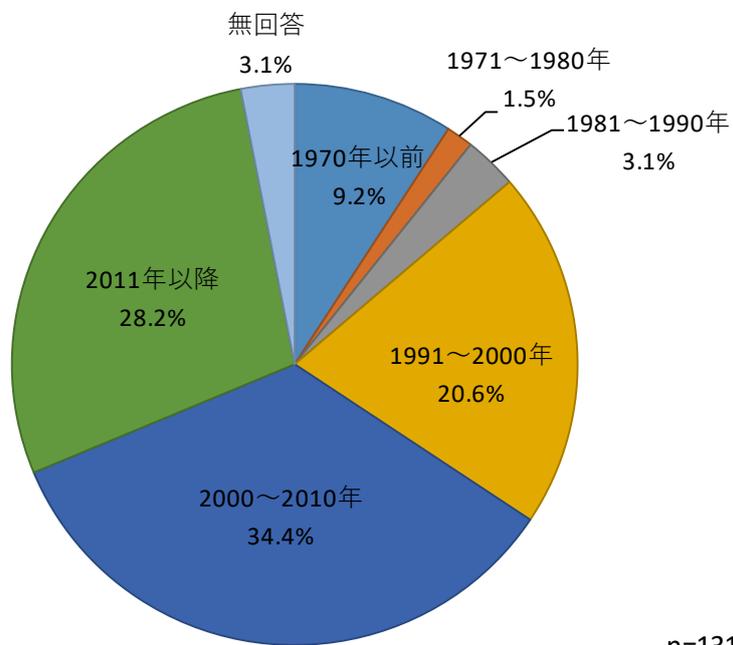
6. 支援機器について相談があった際に、参考となるようなガイドライン（手引き）を作成するとしたらどのような内容が盛り込まれていると良いと思われますか（✓は複数可）。

- 1.支援機器とはどのようなものかの解説
- 2.支援機器に関連する制度
- 3.支援機器の調達（貸与・購入）方法及び手段
- 4.障害の捉え方と支援機器の関係
- 5.障害の特徴に合わせた支援機器の活用事例
- 6.支援機器に関する情報を入手する手段
- 7.支援機器に関する研修などの情報
- 8.支援機器の導入に関わる専門職と専門職へのアクセス方法
- 9.支援機器が展示されている場所、試用できる場所の情報
- 10.支援機器を導入した後の継続的な相談窓口等の情報
- 11.その他（具体的にお答えください）

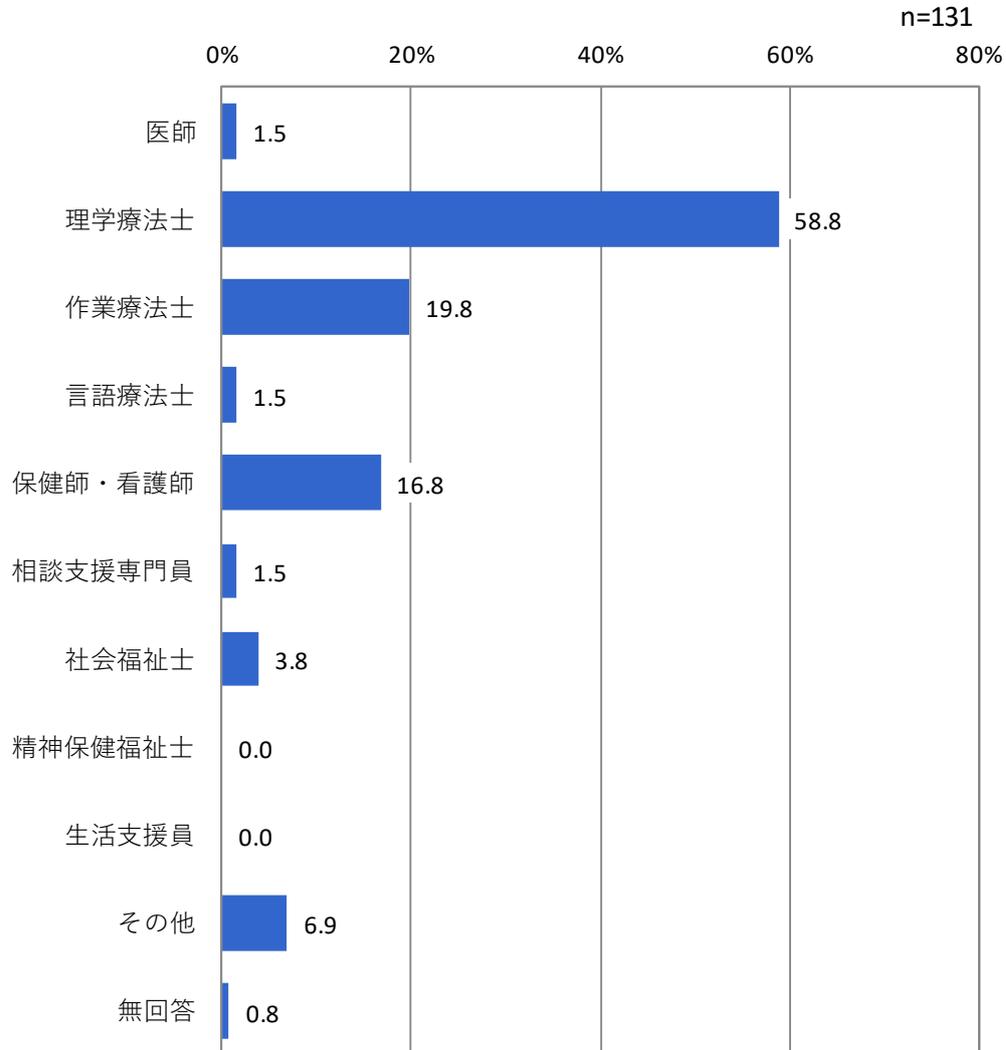
_____)

資料 3-2 アンケート集計結果

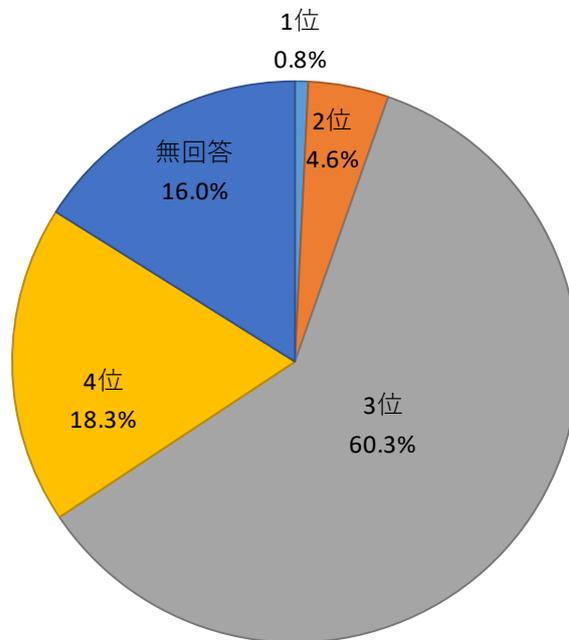
【1. 貴施設が開設されたのは西暦何年ですか？】については、「2000～2010年」34.4%、「2011年以降」28.2%、「1991～2000年」20.6%、「1970年以前」9.2%、「1981～1990年」3.1%、「1971～1980年」1.5%となっている。



【2. ご回答される方の職種をお答えください（✓は複数可）。】については、「理学療法士」58.8%、「作業療法士」19.8%、「保健師・看護師」16.8%、「社会福祉士」3.8%、「医師」1.5%、「言語療法士」1.5%、「相談支援専門員」1.5%、その他 6.9%となっている。

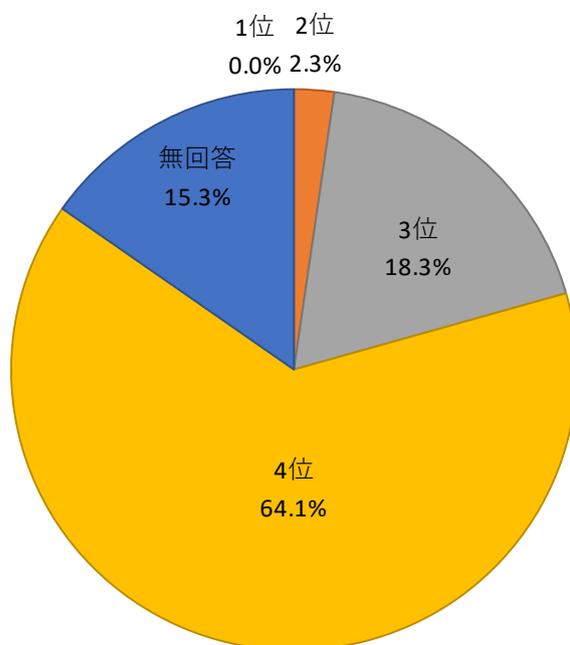


【3. 相談対応する障害支援区分を多い順に1位から4位の順位（数値）でお答えください。/1. 精神障害】については、「3位」60.3%、「4位」18.3%、「2位」4.6%、「1位」0.8%となっている。



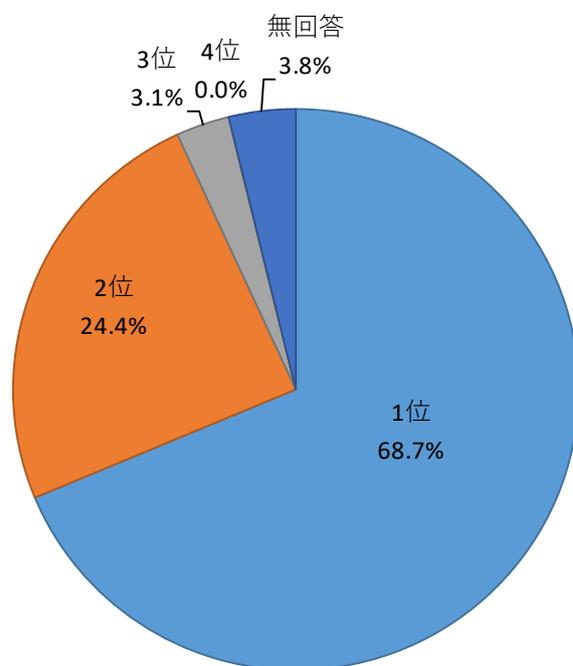
n=131

【3. 相談対応する障害支援区分を多い順に1位から4位の順位（数値）でお答えください。/2. 知的障害】については、「4位」64.1%、「3位」18.3%、「2位」2.3%となっている。



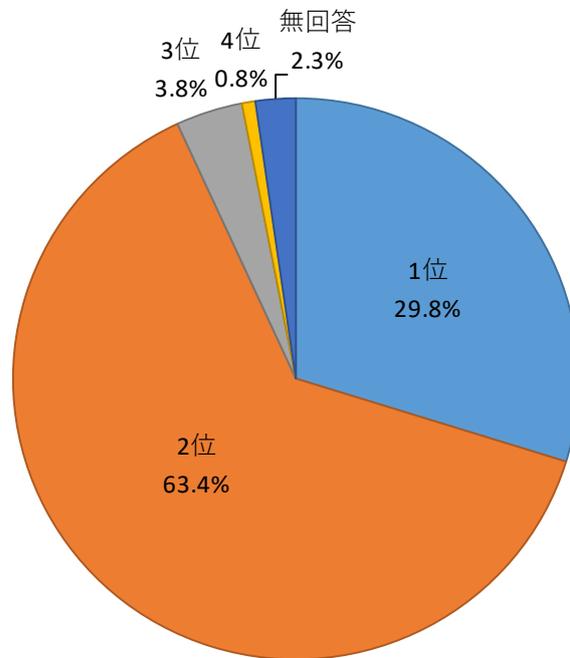
n=131

【3. 相談対応する障害支援区分を多い順に1位から4位の順位（数値）でお答えください。/3. 身体障害】については、「1位」68.7%、「2位」24.4%、「3位」3.1%となっている。



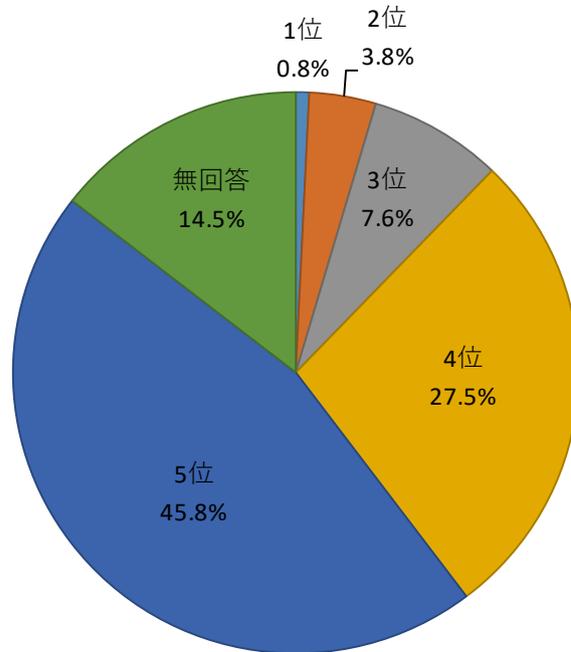
n=131

【3. 相談対応する障害支援区分を多い順に1位から4位の順位（数値）でお答えください。/4. 難病等】については、「2位」63.4%、「1位」29.8%、「3位」3.8%、「4位」0.8%となっている。



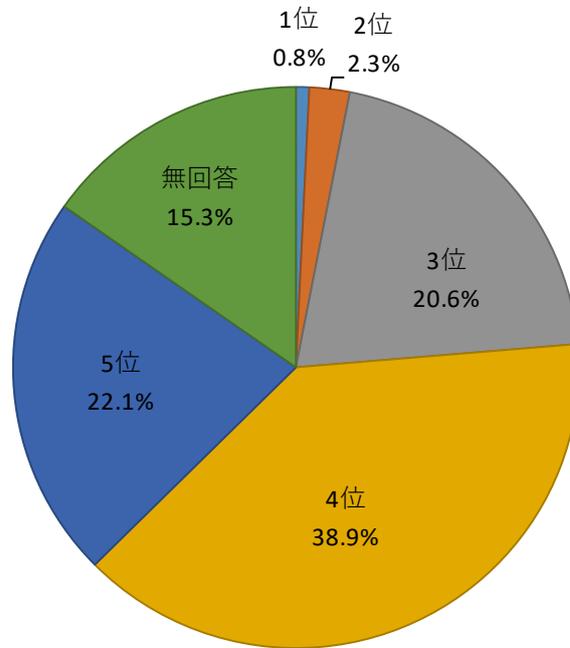
n=131

【4. 相談対応する身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。
/1.視覚障害】については、「5位」45.8%、「4位」27.5%、「3位」7.6%、「2位」3.8%、「1位」0.8%となっている。



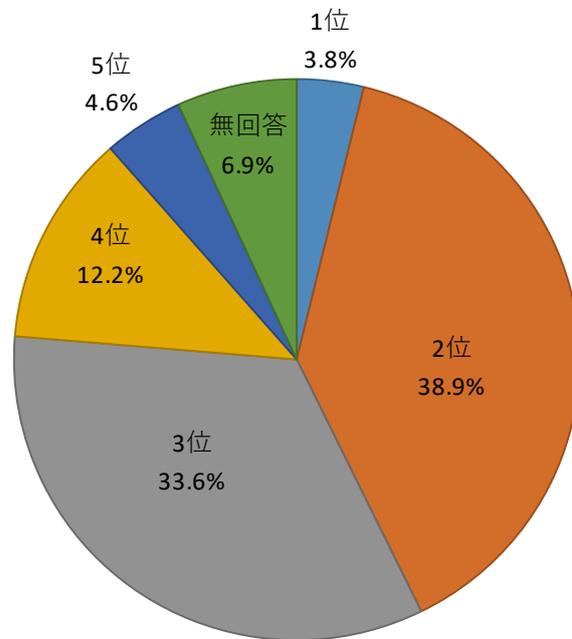
n=131

【4. 相談対応する身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。
/2.聴覚または平衡機能の障害】については、「4位」38.9%、「5位」22.1%、「3位」20.6%、
「2位」2.3%、「1位」0.8%となっている。



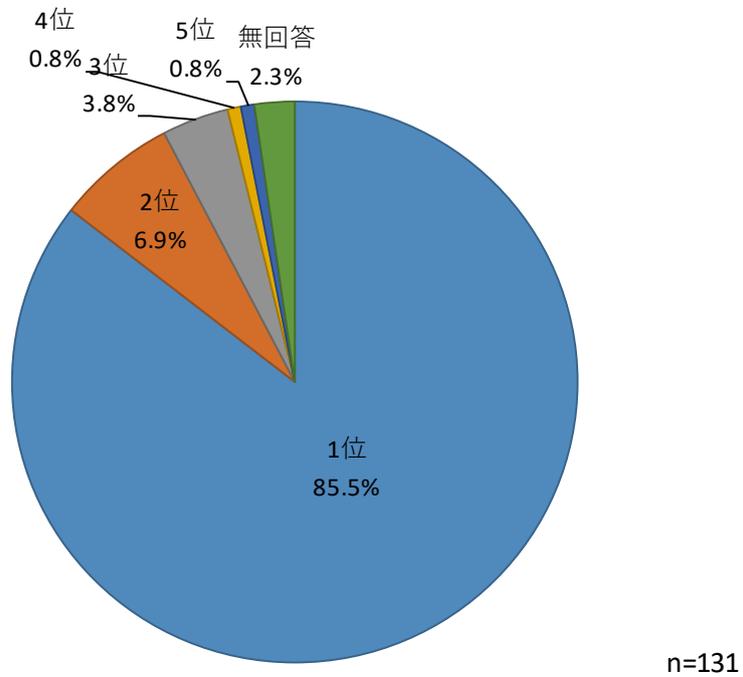
n=131

【4. 相談対応する身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。
/3.音声機能、言語機能またはそしゃく機能の障害】については、「2位」38.9%、「3位」33.6%、
「4位」12.2%、「5位」4.6%、「1位」3.8%となっている。

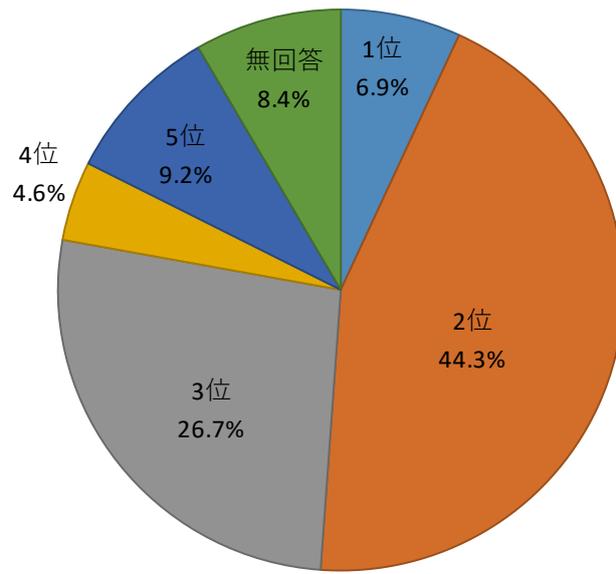


n=131

【4. 相談対応する身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。
/4.肢体不自由】については、「1位」85.5%、「2位」6.9%、「3位」3.8%、「4位」0.8%、「5位」0.8%となっている。

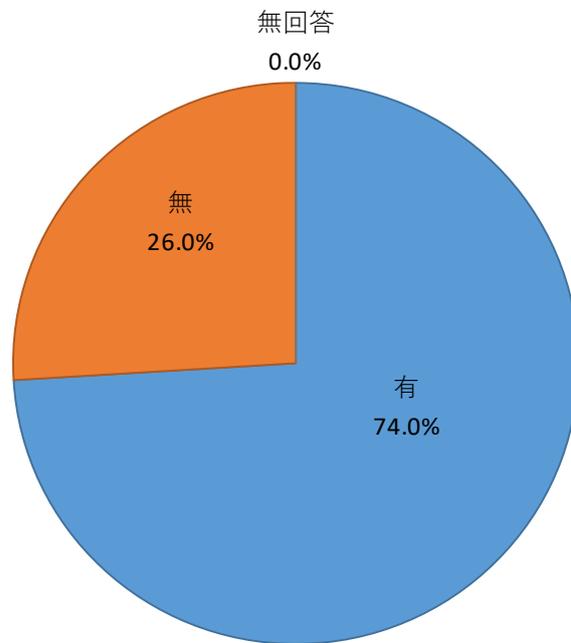


【4. 相談対応する身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。
/5.心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害】については、「2位」44.3%、
「3位」26.7%、「5位」9.2%、「1位」6.9%、「4位」4.6%となっている。



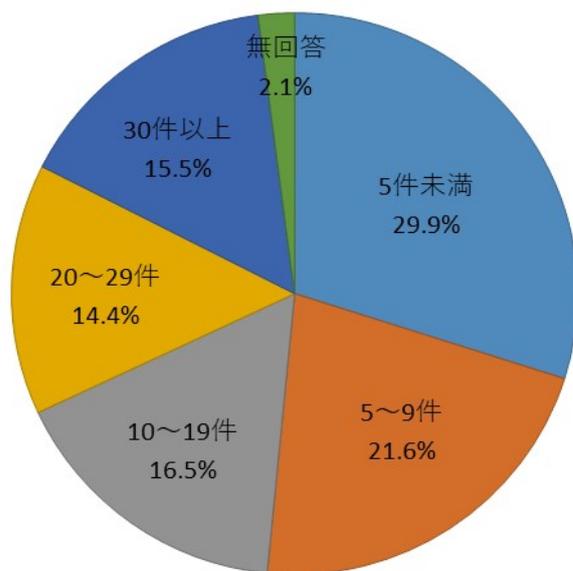
n=131

【5. 貴施設では支援機器について相談を受けることはありますか。】については、「有」74.0%、「無」26.0%となっている。



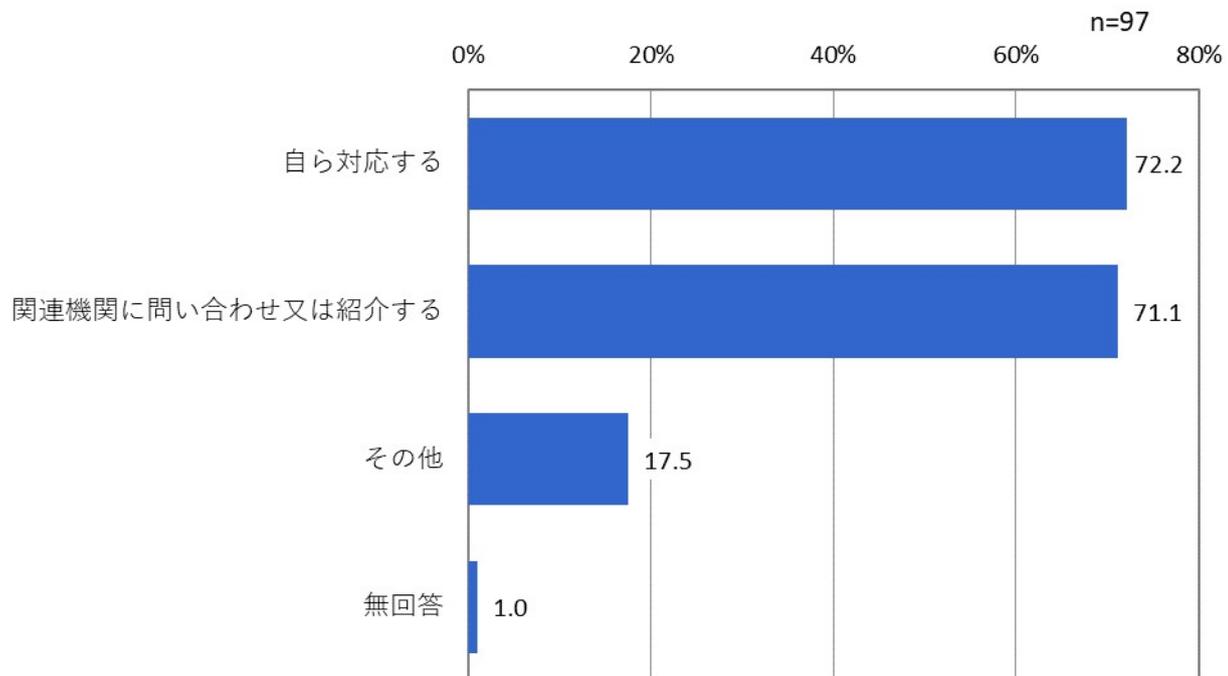
n=131

【5-25で有と答えた場合にはその頻度をお答えください。】については、「5件未満」29.9%、「5～9件」21.6%、「10～19件」16.5%、「30件以上」15.5%、「20～29件」14.4%となっている。

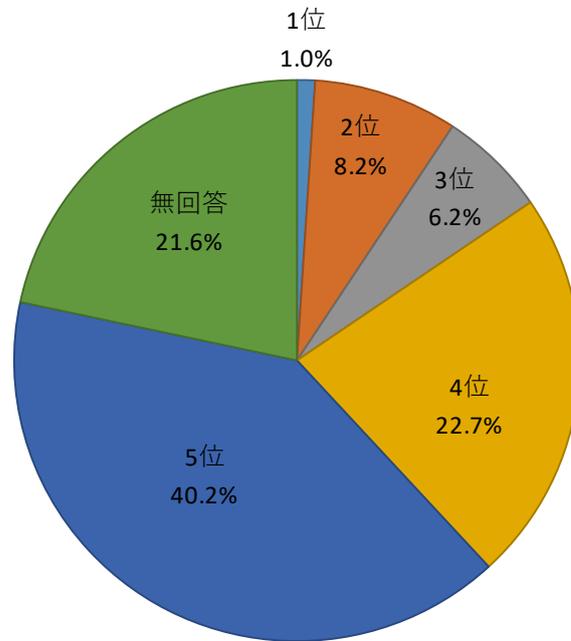


n=97

【5-35で有と答えた場合にはその対応方法について以下より選んでください(✓は複数可)。】
については、「自ら対応する」72.2%、「関連機関に問い合わせ又は紹介する」71.1%、その他
17.5%となっている。

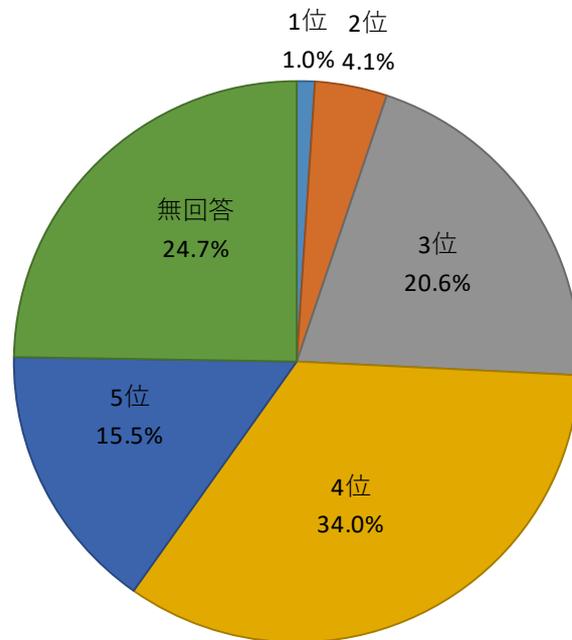


【5-4 5で有と答えた場合には、相談のあった身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/1.視覚障害】については、「5位」40.2%、「4位」22.7%、「2位」8.2%、「3位」6.2%、「1位」1.0%となっている。



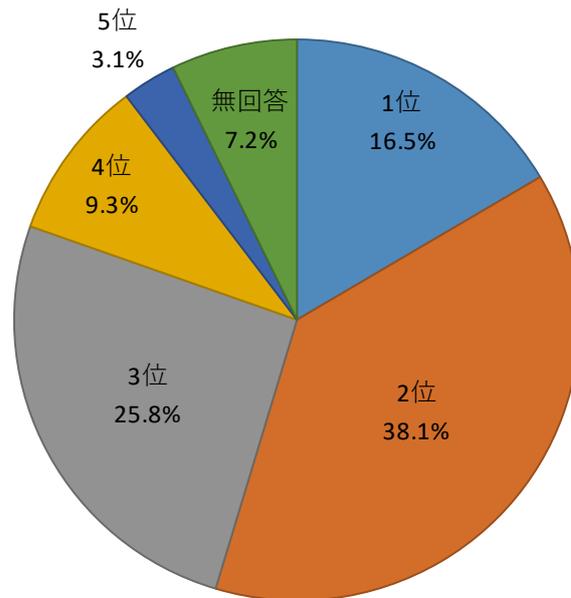
n=97

【5-4 5で有と答えた場合には、相談のあった身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/2.聴覚または平衡機能の障害】については、「4位」34.0%、「3位」20.6%、「5位」15.5%、「2位」4.1%、「1位」1.0%となっている。



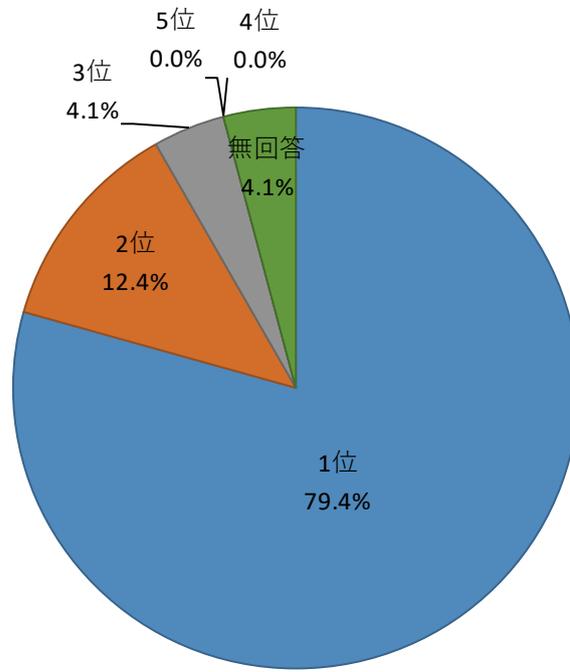
n=97

【5-4 5で有と答えた場合には、相談のあった身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/3.音声機能、言語機能またはそしゃく機能の障害】については、「2位」38.1%、「3位」25.8%、「1位」16.5%、「4位」9.3%、「5位」3.1%となっている。



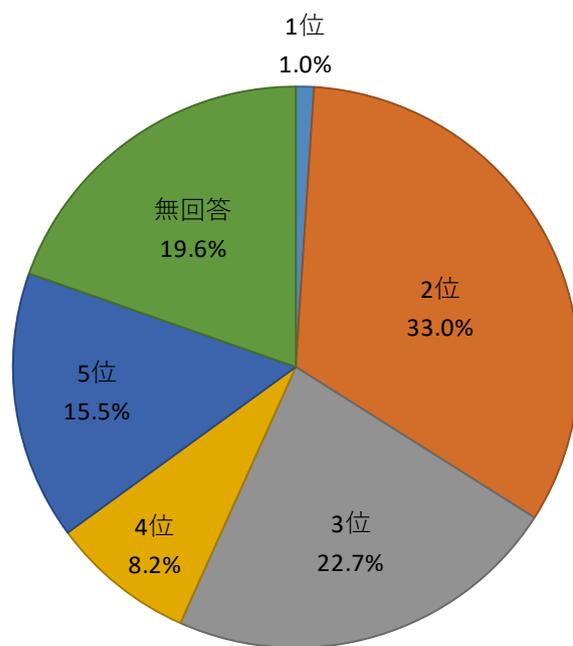
n=97

【5-4 5で有と答えた場合には、相談のあった身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/4.肢体不自由】については、「1位」79.4%、「2位」12.4%、「3位」4.1%となっている。



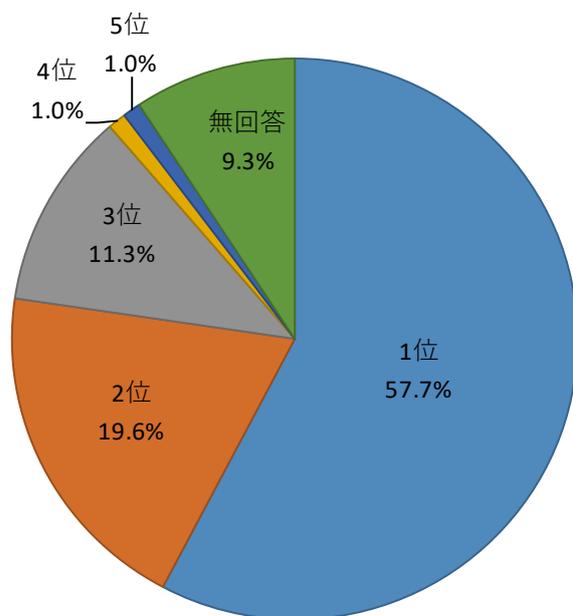
n=97

【5-4 5で有と答えた場合には、相談のあった身体障害の種類を多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/5.心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害】については、「2位」33.0%、「3位」22.7%、「5位」15.5%、「4位」8.2%、「1位」1.0%となっている。



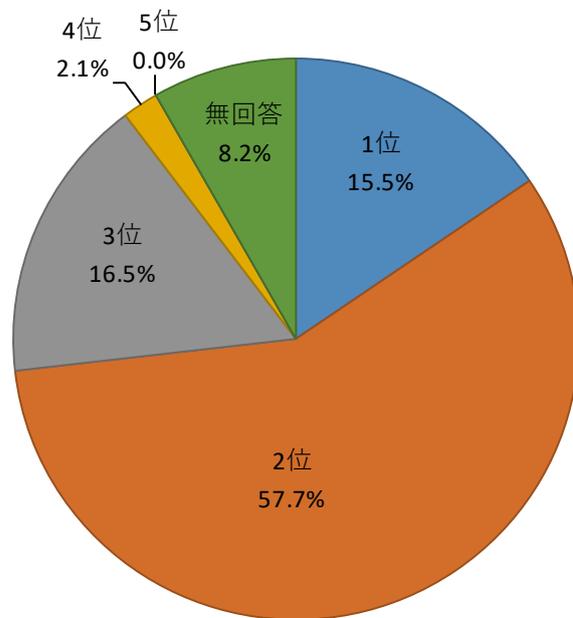
n=97

【5-5 5で有と答えた場合には、相談内容として多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/1.移動や動作等に関連する内容】については、「1位」57.7%、「2位」19.6%、「3位」11.3%、「4位」1.0%、「5位」1.0%となっている。



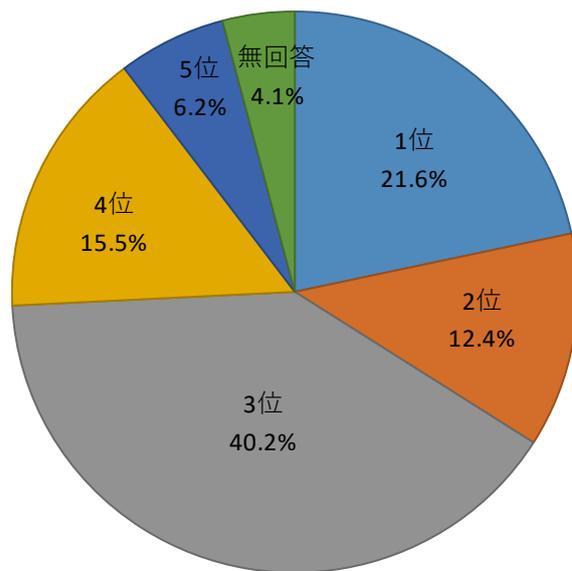
n=97

【5-5 5で有と答えた場合には、相談内容として多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/2.身の回りの世話や日常生活等に関連する内容】については、「2位」57.7%、「3位」16.5%、「1位」15.5%、「4位」2.1%となっている。



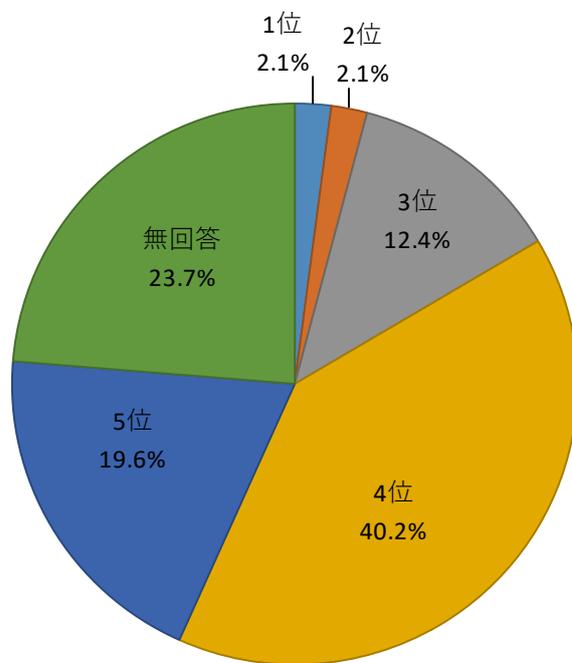
n=97

【5-5 5で有と答えた場合には、相談内容として多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/3.意思疎通等に関連する内容】については、「3位」40.2%、「1位」21.6%、「4位」15.5%、「2位」12.4%、「5位」6.2%となっている。



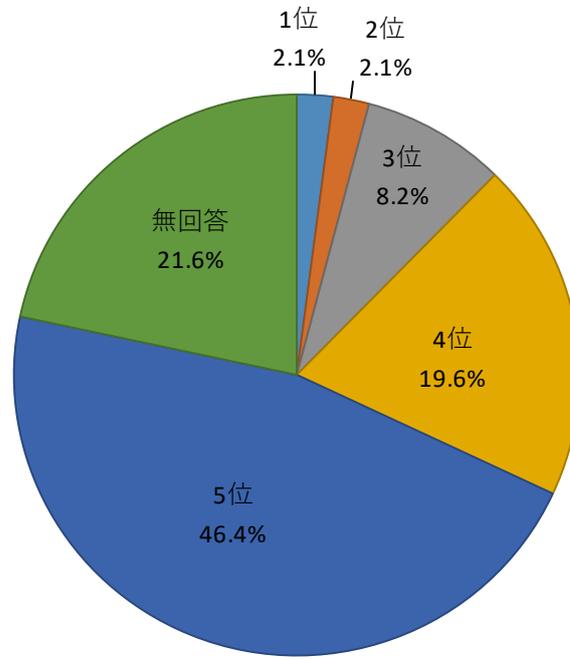
n=97

【5-5 5で有と答えた場合には、相談内容として多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/4.行動障害に関連する内容】については、「4位」40.2%、「5位」19.6%、「3位」12.4%、「1位」2.1%、「2位」2.1%となっている。



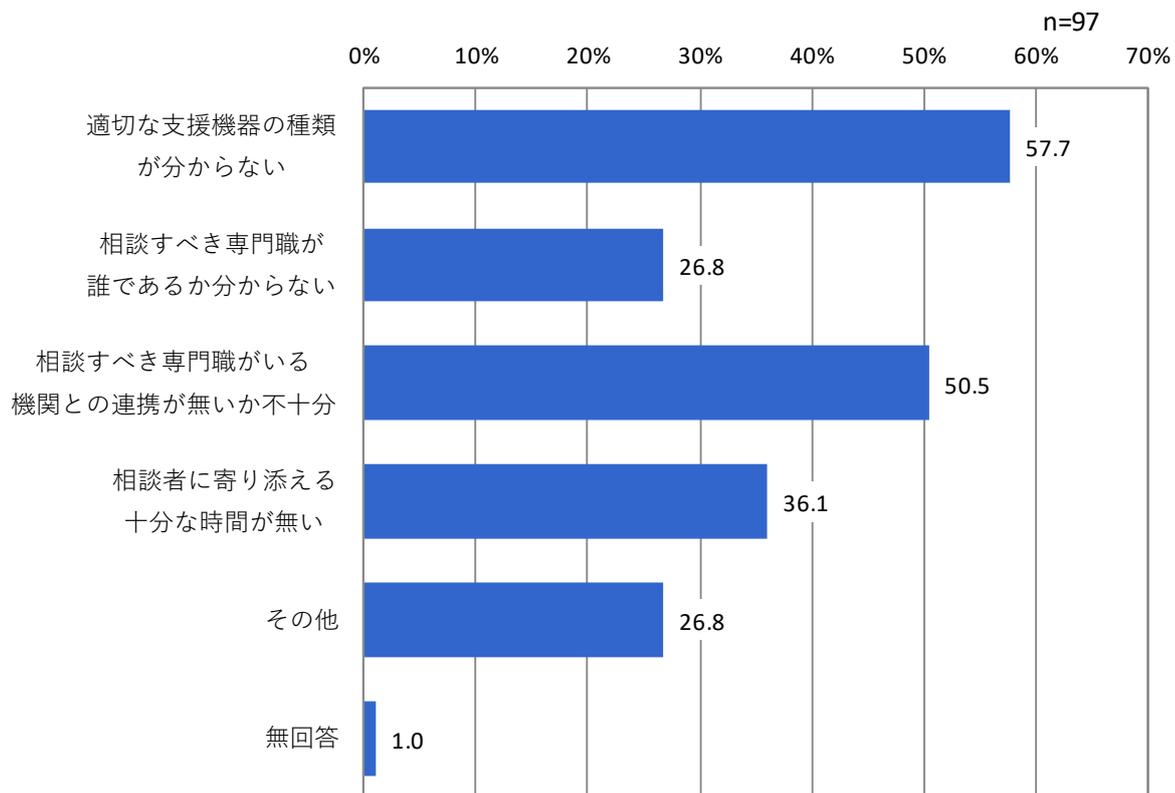
n=97

【5-5 5で有と答えた場合には、相談内容として多い順に1位から5位の順位（数値）でお答えください。/5.特別な医療に関連する内容】については、「5位」46.4%、「4位」19.6%、「3位」8.2%、「1位」2.1%、「2位」2.1%となっている。

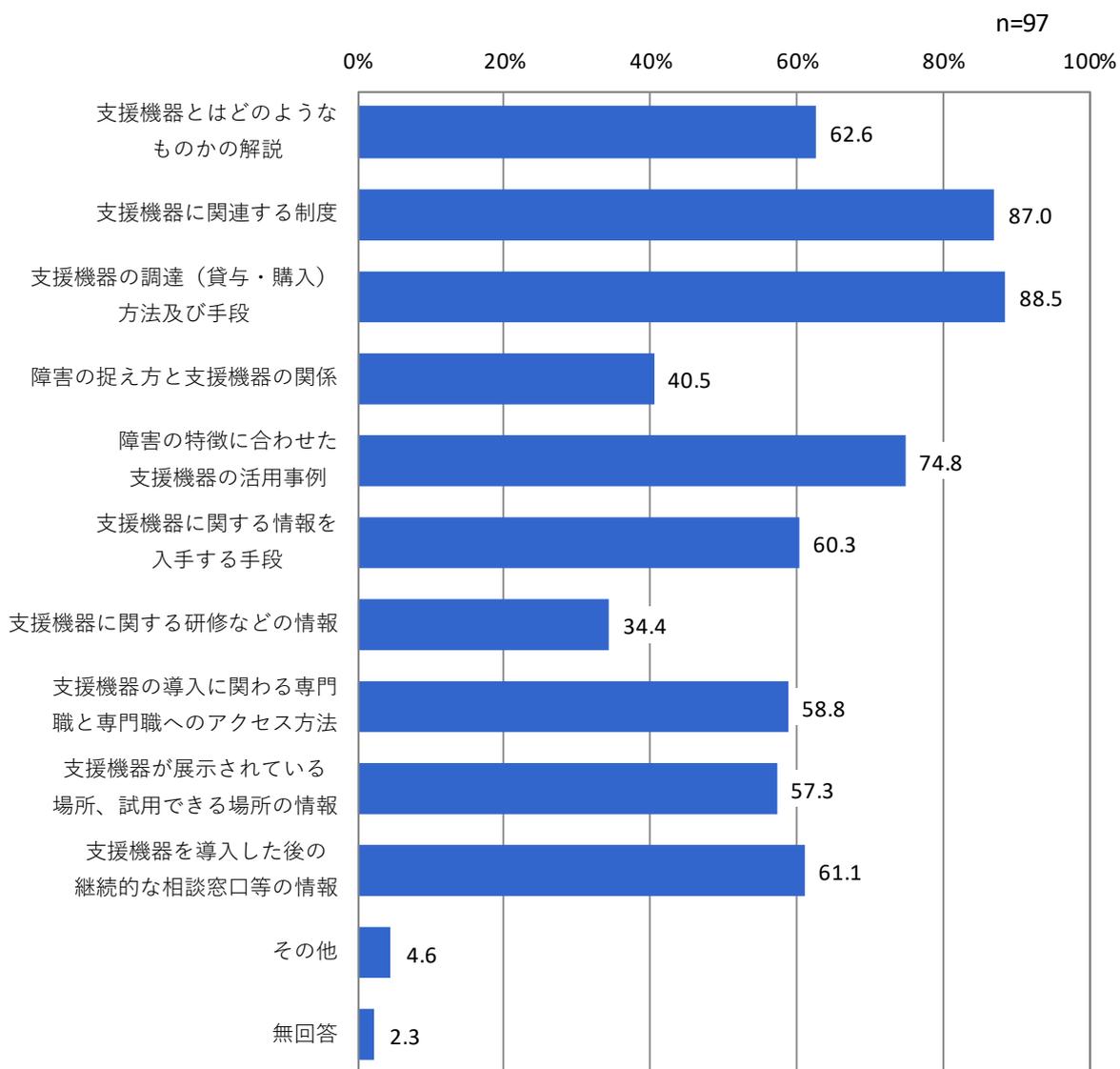


n=97

【5-6 5で有と答えた場合には、相談を受けて困ることをお答えください（✓は複数可）。】
 については、「適切な支援機器の種類が分からない」57.7%、「相談すべき専門職がいる機関との連携が無いか不十分」50.5%、「相談者に寄り添える十分な時間が無い」36.1%、「相談すべき専門職が誰であるか分からない」26.8%、その他26.8%となっている。



【6. 支援機器について相談があった際に、参考となるようなガイドライン（手引き）を作成するとしたらどのような内容が盛り込まれていると良いと思われますか（✓は複数可）。】については、「支援機器の調達（貸与・購入）方法及び手段」88.5%、「支援機器に関連する制度」87.0%、「障害の特徴に合わせた支援機器の活用事例」74.8%、「支援機器とはどのようなものの解説」62.6%、「支援機器を導入した後の継続的な相談窓口等の情報」61.1%、「支援機器に関する情報を入手する手段」60.3%、「支援機器の導入に関わる専門職と専門職へのアクセス方法」58.8%、「支援機器が展示されている場所、試用できる場所の情報」57.3%、「障害の捉え方と支援機器の関係」40.5%、「支援機器に関する研修などの情報」34.4%、その他4.6%となっている。



資料 3-3 ICF コード検索システム

検索画面

コードの表示

検索結果	ICFコード	属性
歩行 小刻み歩行 突進歩行 分回し歩行 歩行動作 歩行障害	d450 歩行	福祉用具
歩行器歩行 杖歩行 シルバーカー歩行	d465 用具を用いた移動	福祉用具

福祉用具の情報

福祉用具詳細	
製品ID	IR13
製品名	標準形自操用手動車いす
型番	AR-301 座幅40 S-2
メーカー	松永製作所
カテゴリ	移動支援機器
製品画像	
価格税抜	75165
価格税込	75600
ISO9999 大分類	12 移動・輸送関連の活動・参加支援用具
ISO9999 中分類	22 手動車椅子
ISO9999 小分類	3 自走用両手駆動車椅子
ICF 章	2 運動・移動
ICF 第二レベル	d465 歩行器歩行 杖歩行 ベッド搬送 リフター移動 シルバーカー歩行 車いす駆動 車椅子移動

